

御大典を目前に控へ

東京金網會社の不謹慎

男女工を工場
内に檻禁して
あらん限りの酷使虐待

更に驚くべき醜怪事露見

既報の通り、府下淀橋町角宮三三四、東京金網株式會社は、職工の加入する 總同盟東京鐵工組合を破壊せんとした事より端を發して罷業となり、會社側は争議勃發以來、一ヶ月に亘り 男女工數十名會社御用組合員を工場内にトヂユメて、土間や板敷に荒蓆を敷かせて寝起させ、一歩も外出を許さないで、町氏及家族は、衛生上、風紀上、目過すべからざるのみならず、御大典も日捷の間に迫つた折柄職工を檻禁して平然として居る實に不敬も甚しき會社なりと糾彈の聲はゴウ／＼となり居る矢先、去る廿一日夜、同社常務取締役 田中治之助が女工の寢室にシノビ入り、之を注意したる城下工務課長を即座に解職したので大問題となつた。

女工の寢所に忍び入つた重役 之を咎めて馘首された課長

◇城下課長昂奮して語る

會社北側の工務課長宅に城下氏を訪へば、氏は疲勞の面を極度に昂奮させて語る。「自分は人の大事の娘さんを預つてゐる工務課長の責任上争議發生當日より、女工の寢所の監督をやつて居りました。去る二十一日夜、十時頃、田中常務がソツコ遣入つて、來たので何の用事か私も少々不審に思ひ咎めた、會社では、女工の寢所には、夜八時以後は、何人も入れない事にしてあり、常務と女工の星野某(特に名を秘す)が代々幡町の某球戯場のボーイをして居る時から、良からぬ噂もありましたので、争議中は殊更に會社の爲めに注意しなければならぬに來ても斷然拒絶する」と固い決意を示して居た

會社は盛んに揉消しに努む

右の報を齎して會社に田中常務を訪へば、面會を避けて小林營業部長代つて面會して城下課長は、病氣静養の爲め一時辭職したに過ぎませんと殊更に本問題に就いて語る事を避けて居たが、種々話して居る内に城下工務課長が馘首になつても、會社には大した動搖はないと、暗に馘首の事實を仄かして居た。因に同會社は勅選議員大川平三郎氏が大株主であり、其の令弟田中武兵衛氏が社長である。

と思つて注意した處、常務は威猛高になつて「俺は會社の常務だ。常務に向つて注意するは不都合な奴だ」と一喝されたので私も常務と少々口論した、ところが翌日になつて突然私も解職されたわけです。實に會社内部の腐敗といつたら問題になりません、こうした所から今度の争議も職工の憤慨する處となり勃發したとも言へませう。私は、御大典も目近になりましたので一日も早く解決致したいと思つて居ましたがこんな事では問題になりません、私は職工からも去る九月三日社會民衆黨代々幡分會の幹部和田を解雇したので、大變悪人の様に憎まれて居ります然し斯る會社には今後どんな人も以て、會社から呼び